



明化の教育

6月号(第490号)
令和3年6月1日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

大切にすること・大切にされること

副校長 松下 由紀子

緊急事態宣言が延長され制限が続く中ですが、子供たちは本領発揮とばかりに、学習に生活にと一生懸命取り組んでいます。6年生は最高学年としての自覚をもち、下級生のよき手本となって様々な場面で活躍しています。また、入学して2か月が過ぎたばかりの1年生も、すくすくと成長するあさがおに嬉しそうに毎日水やりをしています。一人一人の小さな歯車がくるくると回り始め、学級、学年、学校という大きな歯車が、ぐるりんぐるりんと勢いよく回っています。



職員室では、毎日「出席簿をとりに来ました」「校旗を上げに来ました」と学級や学校の仕事を頑張っている様子が見られます。その立派な態度が嬉しくなり、どんな気持ちで取り組んでいるのかなと思いつながら、目をしっかり見るようにしています。お互いに目を見合わせた対応が続くと、子供たちの声が元気になったり笑顔が増えたりします。それは、子供たちはまっすぐ正面から自分が見られることで、自分を大切に思ってくれていると感じられ、より頑張ろうとする意識が働くからではないかと考えました。

広辞苑では、「大切」の意味の一つとして「大いに尊重すること」とあります。子供たちは心の中に「相手を大切にしたい」という気持ちをもっていますが、併せて「大切にされたい・尊重されたい」という思いもあります。自分が大切にされていると感じるのは、「私の気持ちはあなたに向いていますよ、あなたといると嬉しいですよ」というメッセージが、言葉以外でも、相手からの笑顔や温かくやさしい声かけなど、様々な形で相手から伝わった時だと思います。そして、大切にされた経験は自分の心に積み重なり、その経験が多いほど、他の人にも大切にされた嬉しさを伝えていきたいと思うのではないのでしょうか。

先日、5年生が道徳科で「すれちがい」を教材に学習をしていました。その中で子供から「(すれ違ったのは)相手にも事情があるから、責めないで許す」という発言がありました。嫌な思いをしたかもしれないけれど、すれ違った事情を理解しようとしているのです。それは相手を大切に思うから出てくる考えで、現実の場面でもその思いで向き合えれば、お互いにさらに良好な関係を築いていくことができると思いました。

文京区では5月と12月を「いのちと人権を考える月間」、6月は「ふれあい月間」と位置付けています。子供たちに今一度、相手を思い大切に思う気持ちで行動することを意識させ、お互いに頑張れ、毎日がより気持ちよく過ごせるように声をかけていきたいと思っています。ご家庭でも、お子さんの相手を大切に思う言動が少しでも増えることを願っています。

～緊急事態宣言の延長を受けて～

連日のニュースでご承知のとおり緊急事態宣言が延長され、6月20日(日)までとなりました。これに伴い、本校では引き続き文京区版学校感染症予防ガイドライン(令和3年5月26日改定)に基づき、感染症対策を徹底しながら教育活動を継続してまいりますので、よろしくお願ひいたします。(詳しくは、別紙「緊急事態宣言の再延長に伴う今後の教育活動(6月1日以降)について(令和3年5月31日付)」をご覧ください)